

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

京都インテリア学会

今年度の日本インテリア学会の開催校は京都女子大学だった。この大学は、東

山三十六峰の南端、阿弥陀峯の中腹にある「東山七条」にあり、京阪七条駅から比較的近いにも関わらず緑の美しい静かな佇まいだ。明治三二年に創始され、略称を「京女(きょうじょ)」と呼ばれている。私の母校(明治三四年創設)も「本女(ほんじょ)」と呼ばれて、女子教育を創りあげた大学として並んで語られることが多い大学だ。

東山七条から京都女子大学構内への坂道は通称「女坂」といわれている。大学の併設校や木々の緑を楽しみながら坂道を登ると大学に到着する。

坂といえは、私の母校の生田校舎には「大根坂」がある。毎日通学するうちに、いつの間にか足が大根のように太くなるということ得名された。かなりの長い傾斜のある通学路は緑に囲まれ、時々兎が顔を出す気持ちのいい敷地内の山なのだが、付属高校時代に陸上部員としてこの坂を走り回っていた私には、他の生徒以上にその大根坂の効果は

見受けられるようで嬉しくない名称だった。

京女は校舎だけでなく学園の建学記念館「錦華殿(きんかでん)」も復興されていて大変美しいのには驚いた。卒業生に限らずどなたでも自由に見学できる。不定期に開催される所蔵図書などの特別展の開催期間中は、一般の方の見学者も多いそうだ。残念ながら今回建物内は拝見できなかったが、ぜひいつか見させていたいただきたいと思うながら大会にのぞんだ。



建学記念館「錦華殿」

こんなふうに毎年行われる学会では、大学の趣を感じながら訪問でき、歴史があつて建造物としても価値がある各地の大学を知ることがができる。

今回も同大学が仏教精神に基づく女子教育を実践する大学だと初めて知った。



学会会場校舎

「親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく人間教育」を建学の精神としてい

ることだった。学会では論文発表は勿論だが、各大学の卒業作品展も展示される。作品名は「言葉の廊」や「無限のひとかけ」、「現代の日本における一人暮らしの生活に適したいすの提案『F Chair』」など興味深く、今後の活躍が期待されるものが多かった。大学の卒業後の就職先には、住宅のリフォーム・リノベーション設計に携わる学生もいるようで楽しみだ。

学会開催校になった大学の先生方は事務局として受け入れ体制など大変だと思うが、学生も協力者としてともに活躍している姿を見ると、大学に在るからこそ企画や体制はきちんと実行していくことが、社会に出てからもきつと有形無形の蓄積になり役立つことだろうと感じた。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。